



東証スタンダード：3131

2024年度 第2四半期決算説明資料

2024年11月11日

1. ポイント①（2024年度 Q2）

◇販売面 ⇒ 7.0%増

- ✓半導体製品分野は、底打ち感が見られるメモリ市況を背景に各種メモリの販売が伸びたため20.1%増収。
- ✓ディスプレイ分野は、前年の主要顧客の民事再生によるビジネス終息のリカバリーへの取組が奏功し、39.0%増収。
- ✓EMSビジネスにおける前年度の増産の一時的な反動減と、単発的なAIサーバ機器ビジネスの剥落が主な要因で、システム製品分野は44.1%減収。
- ✓バッテリー&電力機器分野は、主力の家庭用蓄電システム向けビジネスが堅調に推移し、2.0%増収。

▼
システム製品分野の不調を、半導体製品分野及びディスプレイ分野における汎用品のボリュームビジネスの伸長により、総じて増収となった。

◇損益面 ⇒ 営業利益は、238.1%増、経常損益以下は「黒字転換」。

- ✓売上総利益：半導体製品分野及びディスプレイ分野の増収があるものの、比較的利益率の高いシステム製品分野の「一時的な」反動減により減益。
▲5.3%
- ✓営業利益：前年同四半期において、主要取引先の民事再生に伴う貸倒引当金繰入額（700百万円）が大幅に圧縮され増益。
- ✓経常損益：営業外損益における、Q1末の為替差損（119百万円）が、Q2末の為替差損（19百万円）に大幅に圧縮されたため黒字転換。

2. ポイント②（2024年度 Q2）

◇足元の状況 ⇒ 当初の想定を上回る進捗。

- ✓ 通期連結業績予想の前提（＝当初の想定とは・・・）
 - ・メモリ市況（半導体製品分野）は下期より回復すると見込んでいる。
 - ・ディスプレイ分野において、下期より有機ELの新規ビジネスの立ちあがりを見込んでいる。
 - ・システム製品分野の一時的な反動減は、下期より通常運転に回復すると見込んでいる。



上期スロースタート、下期挽回型の通期連結業績予想。

- ✓ 販売面：Q1後半からQ2初めにかけて円安進行 → 営業利益面（売上総利益）のプラス効果
- ✓ 営業外：Q2期末にかけて円高進行 → 経常利益面でのプラス効果（Q2四半期為替差益）



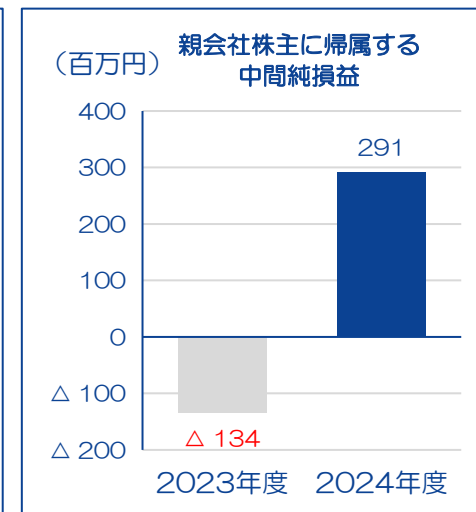
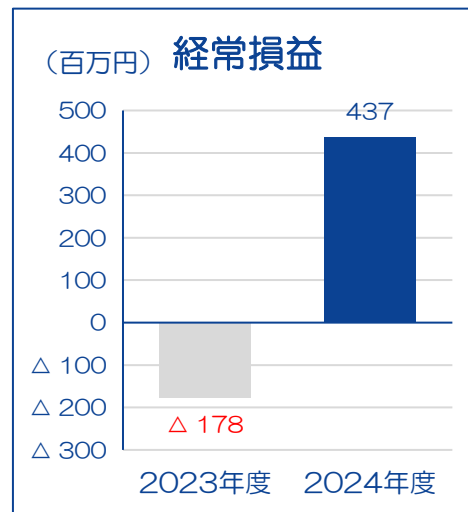
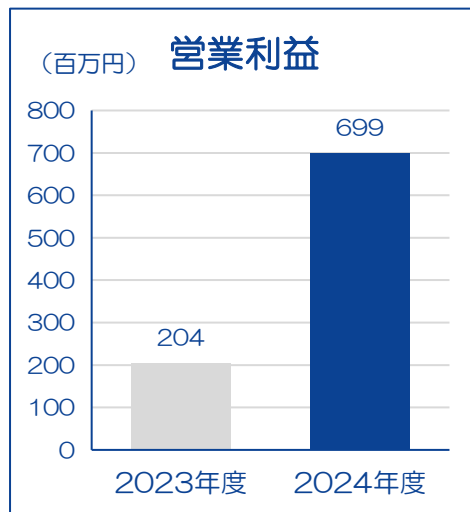
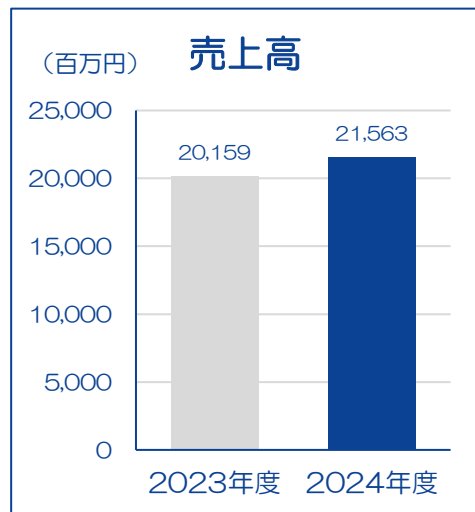
販売・財政面のダブルの為替効果によって、当初の想定を上回る進捗。

◇今後の見通し ⇒ 2025年3月期通期連結業績予想に変更はない。

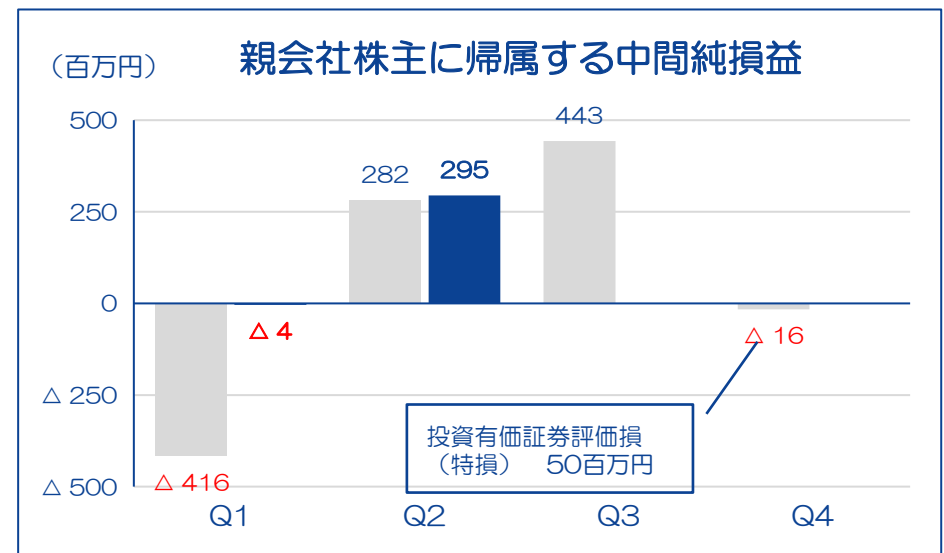
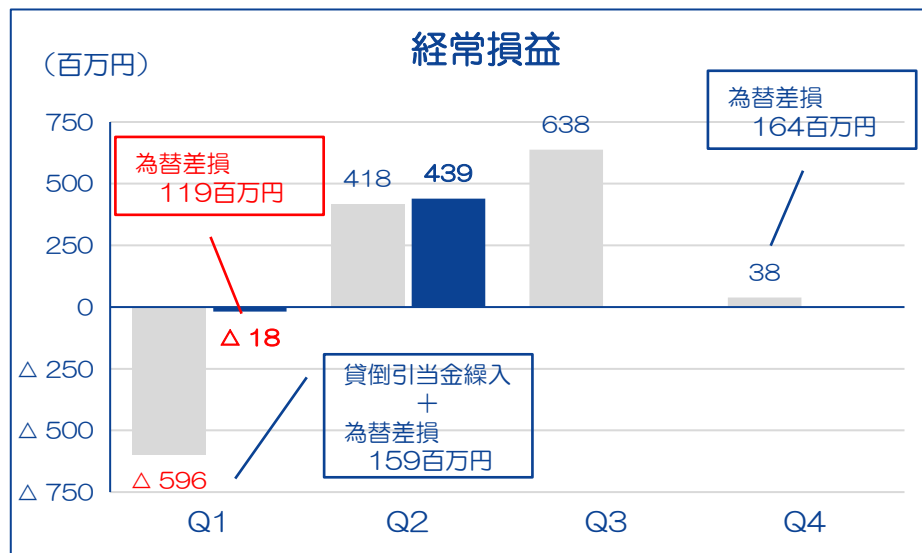
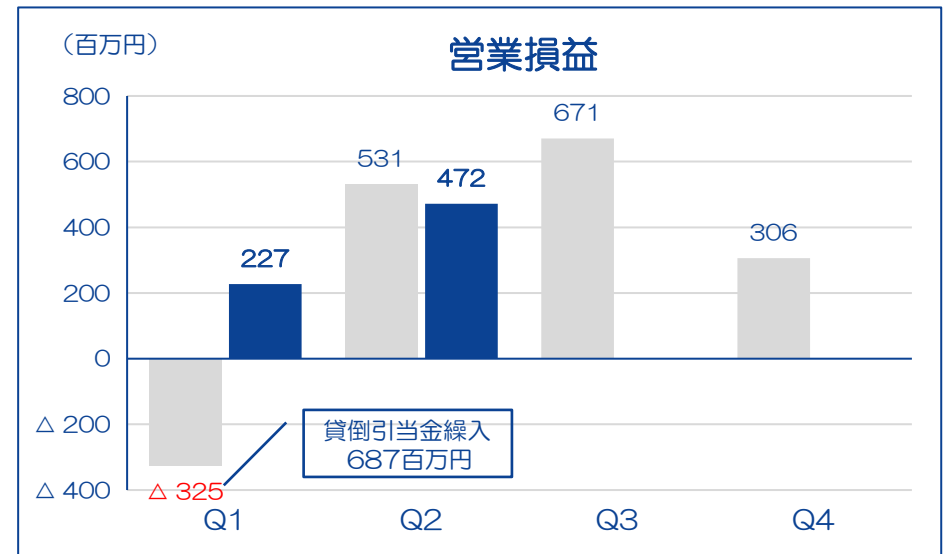
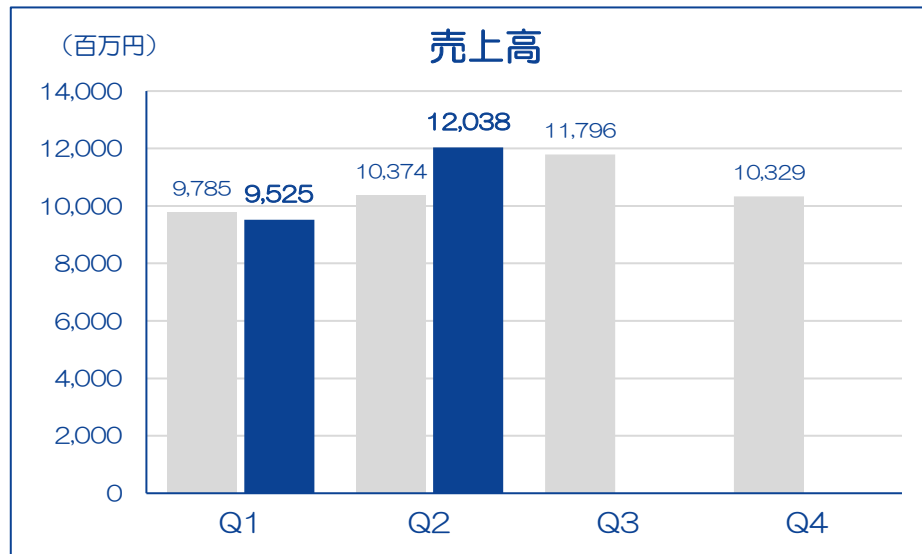
- ✓ 販売面：ビジネス自体の見通しに大きな変化がなく、上半期においては当初の想定を上回る推移。しかし、足元の円高基調の為替相場では、第3四半期は厳しい環境となり、当初の想定付近に着地するものと見込まれる。
- ✓ 営業外：今後の為替相場の動向次第で、為替差損益が発生し経常損益以下の指標にプラス又はマイナスの変動がある可能性。

3. 業績サマリ (2024年度 Q2累計)

金額単位：百万円	前年度Q2実績 (2023年度)	当年度Q2実績 (2024年度)	増減額	増減率
売上高	20,159	21,563	+1,404	+7.0%
営業利益	206	699	+492	+238.1%
経常損益	△178	421	+600	**
親会社株主に帰属 する中間純損益	△134	291	+426	**



4. 四半期別業績（前年四半期別対比）

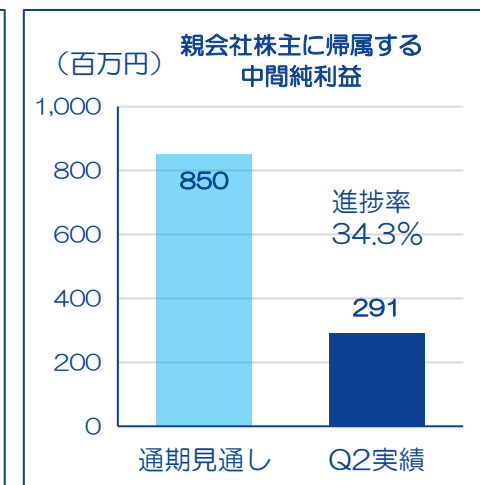
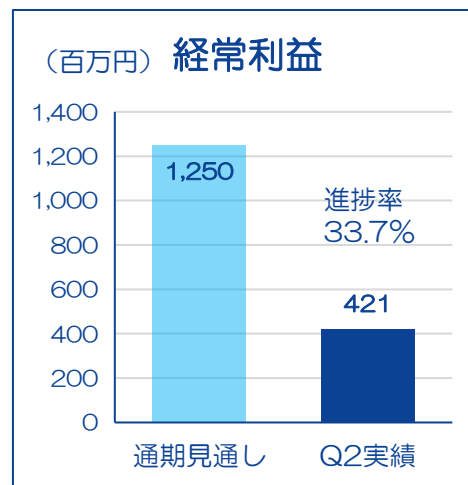
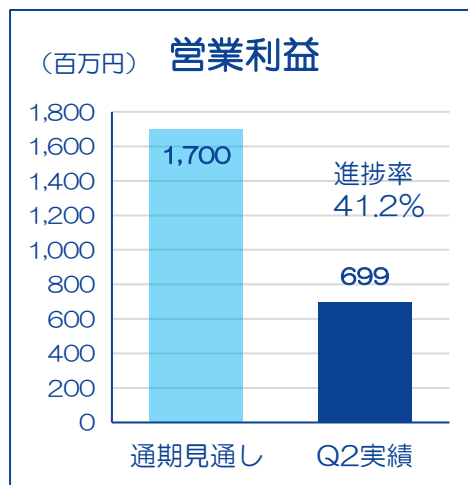
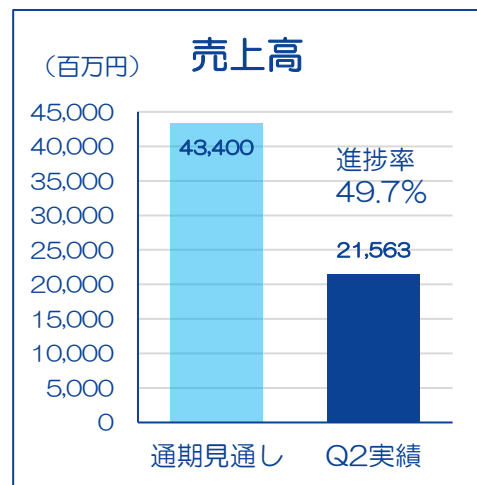


凡例： 2023年度 2024年度

5. 通期見通し進捗状況（2024年度Q2）

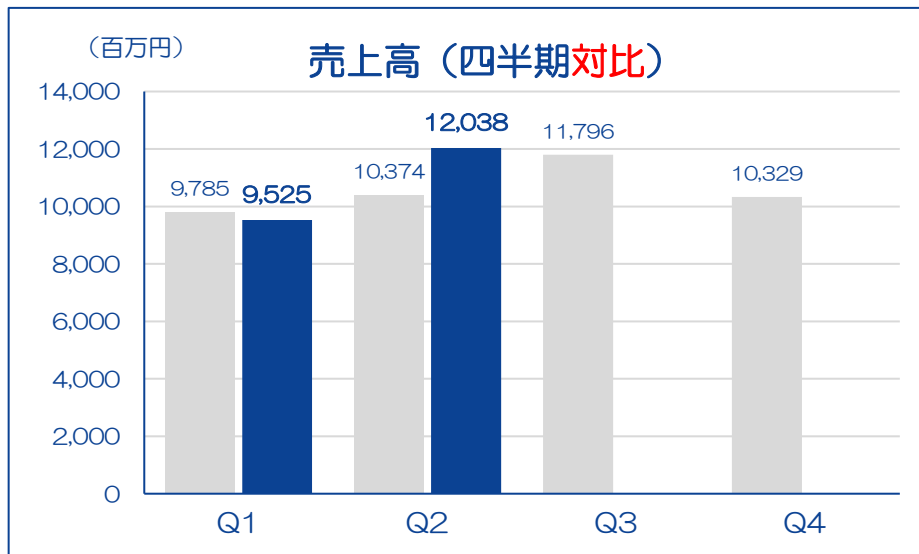
低進捗要因は、上期のスロースタート見通しのため。しかし、当初の想定を上回る推移。

金額単位：百万円	通期見通し (2024年度)	Q2実績 (2024年度)	進捗率
売上高	43,400	21,563	49.7%
営業利益	1,700	699	41.2%
経常利益	1,250	421	33.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	850	291	34.3%

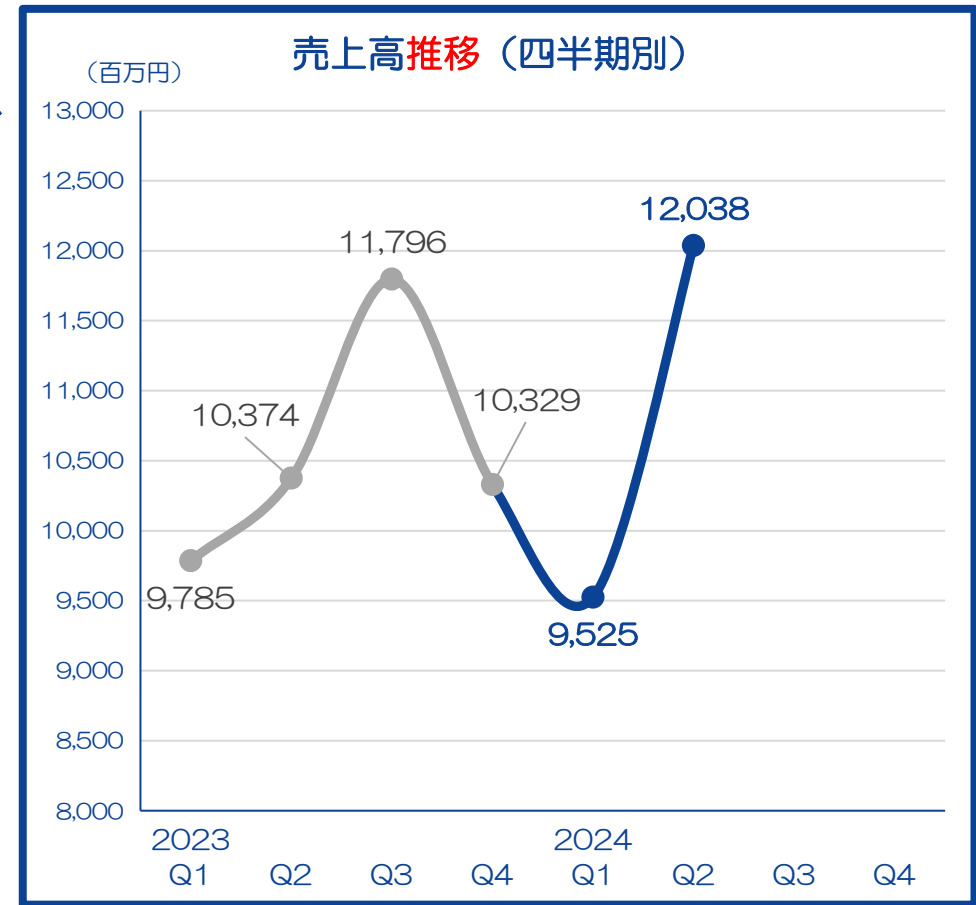


6. 販売状況（四半期別の売上高推移）

5ページの四半期毎の売上高対比表を時間軸で並べ替えると・・・

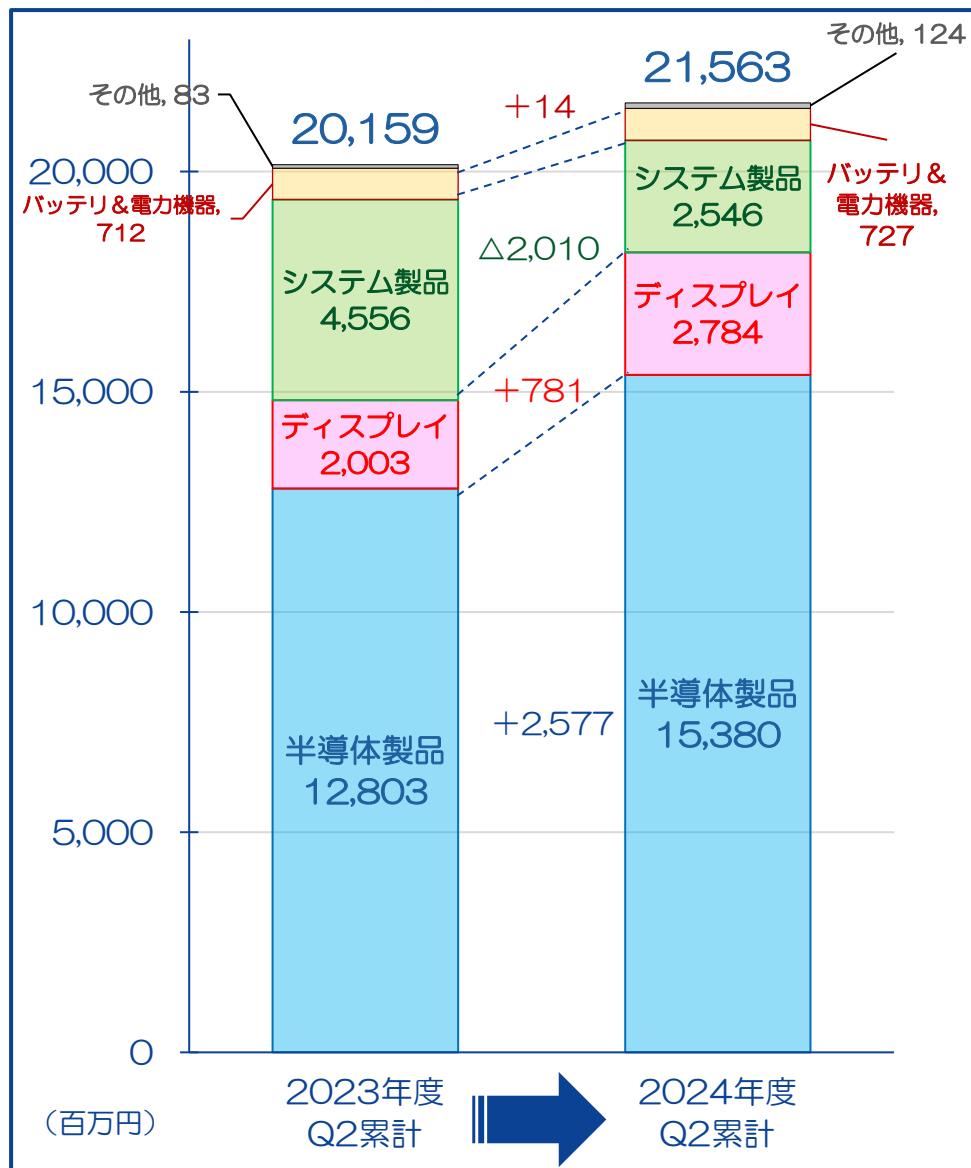


凡例：  2023年度  2024年度



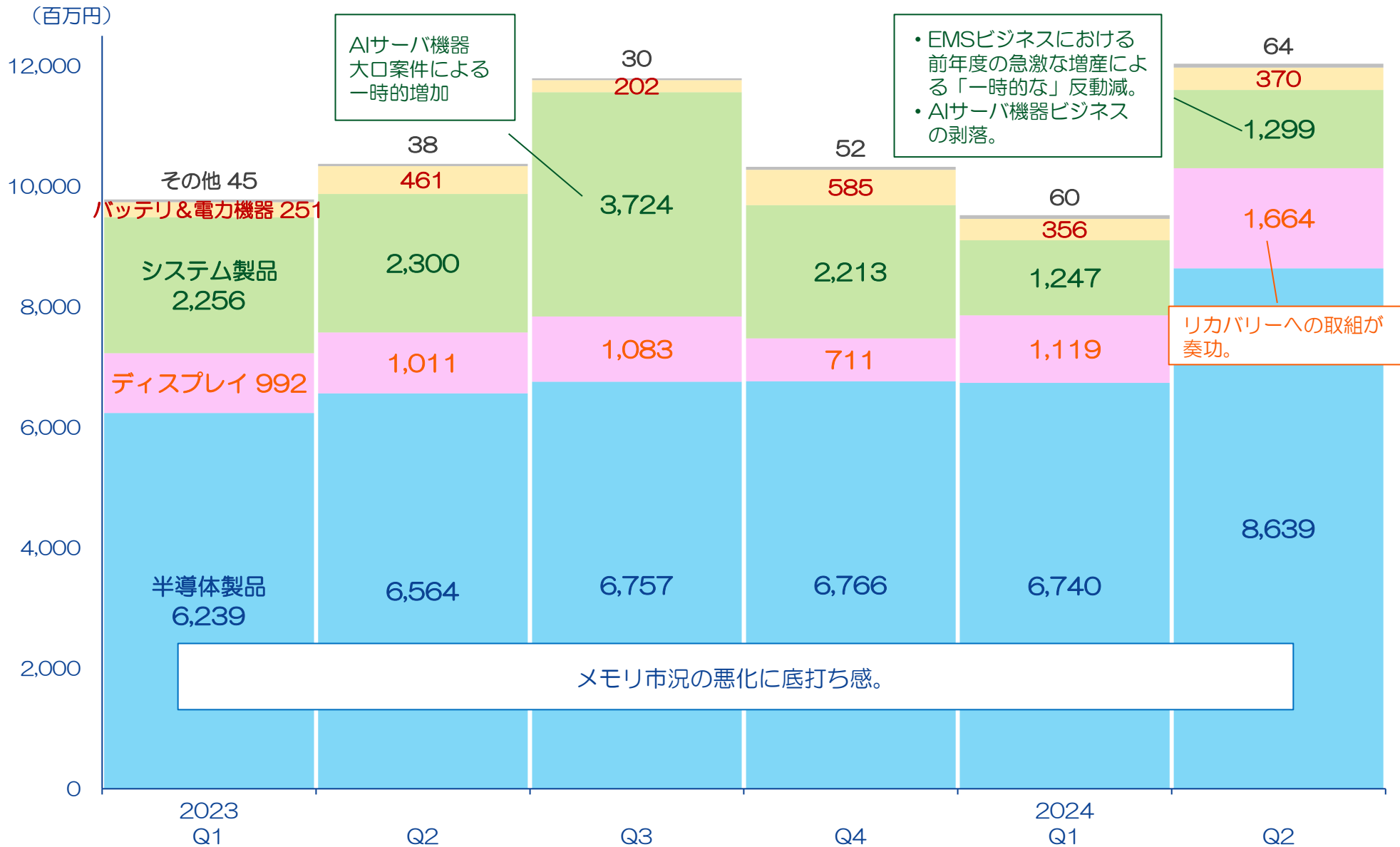
2024/Q2は半導体製品・ディスプレイの両分野の汎用品ボリュームビジネスが増加。

7. 販売状況（分野別売上高：前Q2対比）



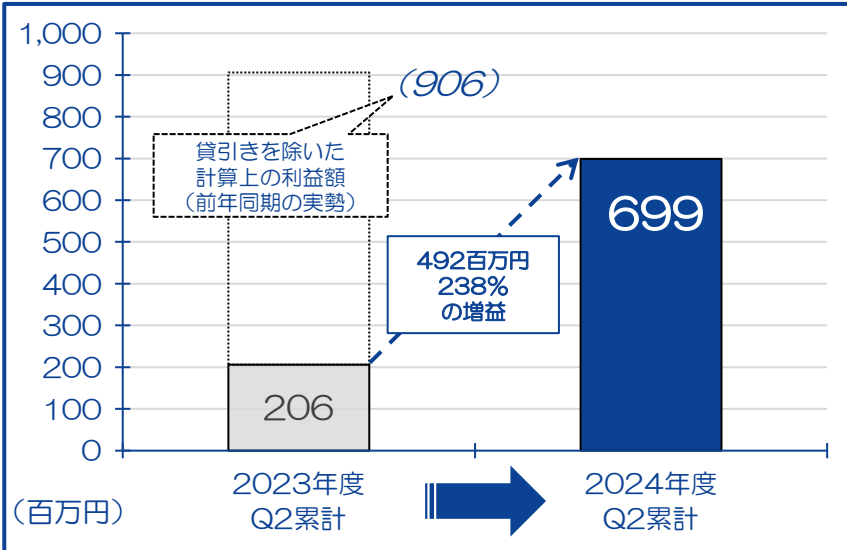
品目別	増減%	状況
半導体製品	+20.1%	底打ち感が見られるメモリ市況を背景に各種メモリの販売が伸長し、売上高は増加。
ディスプレイ	+39.0%	前年度の主要顧客の民事再生によるビジネス終息のリカバリーへの取組みが奏功したため、売上高は増加。
システム製品	▲44.1%	EMSビジネスにおける前年度の増産の一時的な反動減と、単発的なAIサーバ機器ビジネスの剥落が主な要因となり、売上高は減少。
バッテリー&電力機器	+2.0%	主力の家庭用蓄電システム向けリチウムイオンバッテリービジネスが堅調に推移し、売上高は増加。

8. 販売状況（四半期別分野別売上高推移）

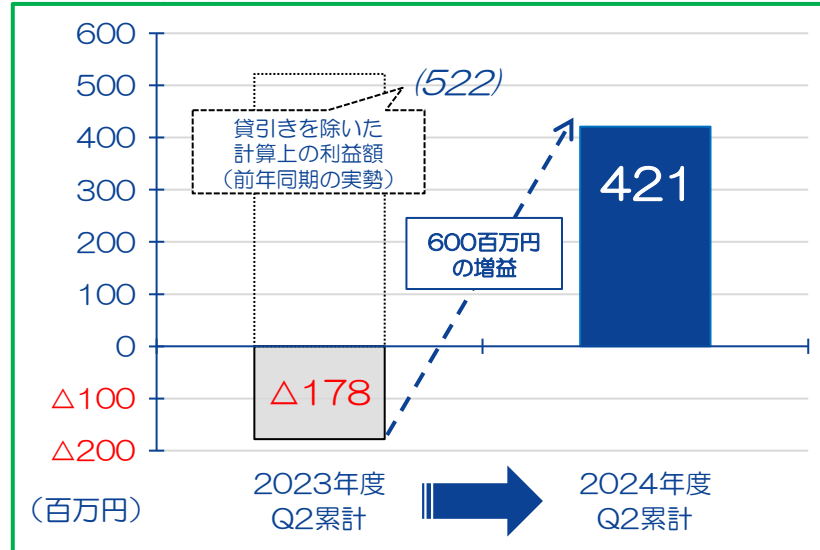


9. 損益の状況（営業利益・経常損益）

営業利益



経常損益



営業利益

売上総利益

半導体製品分野及びディスプレイ分野の増収があるものの、比較的利益率の高いシステム製品分野の「一時的な」反動減により減益。

販売費及び一般管理費

前年Q1の、主要取引先の民事再生に伴う貸倒引当金繰入額（700百万円）が大幅に圧縮され増益。貸倒引当金繰入額を除いた「その他の販売管理費」は、活動費と販売等の手数料増加で6.5%増。

貸引きを除く計算上の損益

前年度発生 of 貸倒引当金（700百万円）を除いた計算上の損益（前年同期の実勢）を906百万円と仮定した場合、当期中間期の営業利益699百万円は、前年同期の実勢に対し▲22.8%の推移となる。←

経常損益

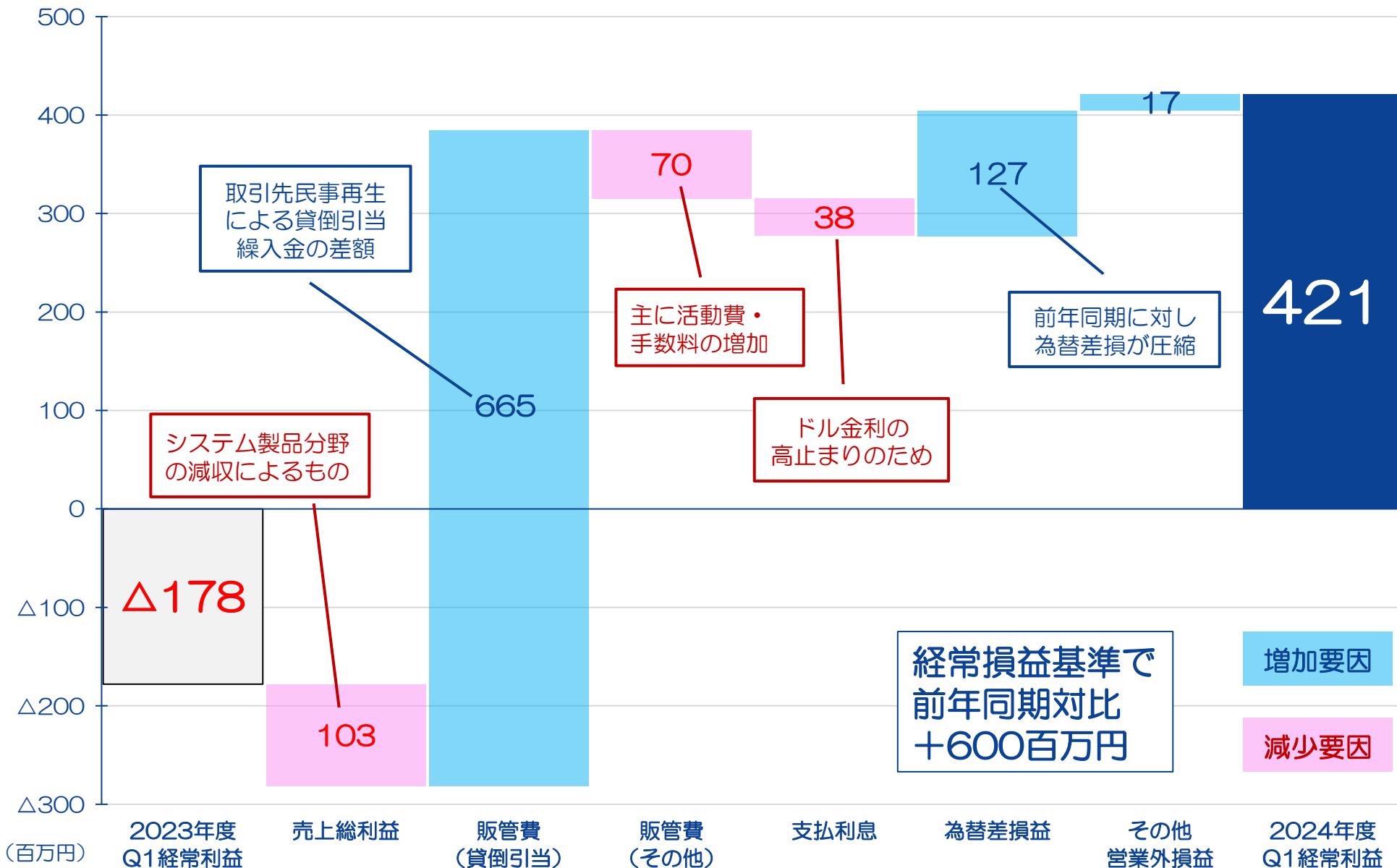
経常損益

営業利益の増加と為替差損の圧縮により黒字転換。

貸引きを除く計算上の損益

前年度発生 of 貸倒引当金（700百万円）を除いた計算上の損益（前年同期の実勢）を522百万円と仮定した場合、当期中間期の経常利益421百万円は、前年同期の実勢に対し▲19.3%の推移となる。←

10. 利益増減チャート（経常損益基準）



1.1. 中期経営目標に変更はありません。

■ 次期中期経営期間における販売戦略は、推進中の「収益構造改革」の基本構造を踏襲しつつ、経営基盤戦略を充実させ、下記の中期経営目標の達成に向けて邁進します。

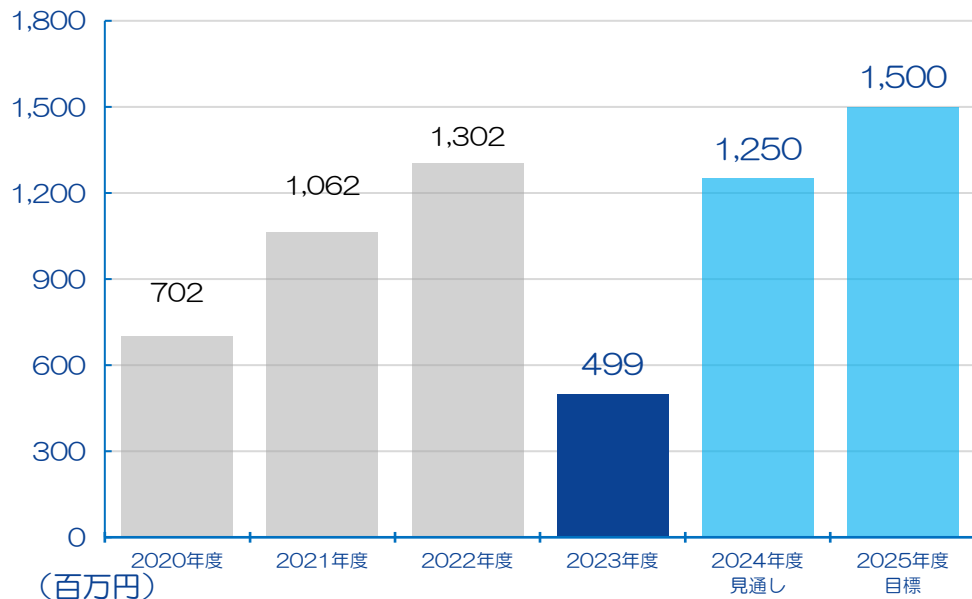
目標①

変更なし

2025年度連結経常利益

15億円

【経常利益】



目標②

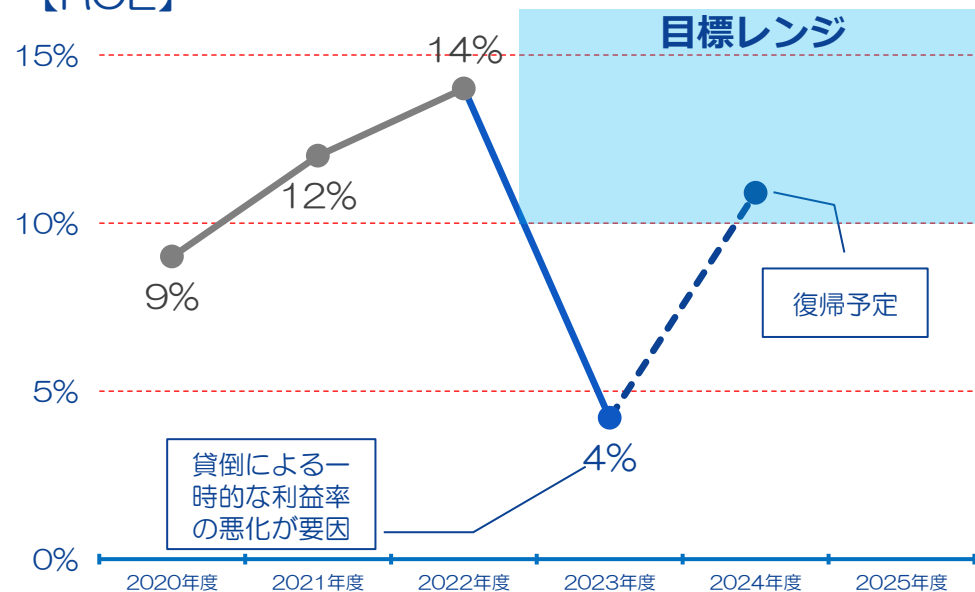
変更なし

ROE

(※) 自己資本利益率
ROE=当期純利益÷自己資本×100

10%以上を継続する。

【ROE】



本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社（以下、当社）の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2024年11月11日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先

シンデン・ハイテックス株式会社
経営企画室

フリーコール：0800-5000-345